大阪府立たまがわ高等支援学校　平成 31 年度　第２回　学校運営協議会の概要

［１］　日時　令和元年 12 月 13 日（金）　午前 10 時 00 分～11 時 30 分
［２］　場所　大阪府立たまがわ高等支援学校 会議室
［３］　出席　協議会委員５名　事務局員７名
［４］　内容
　１　開会の挨拶
　２　事務局から説明
　（１）平成 31 年度「学校経営計画」進捗状況について
　（２）「学校教育自己診断」について
　　「授業アンケート」について
　（３）報告事項
　　①進路状況について
　　②生徒指導について
　　③部活動について
　（４）その他
　３　協 議
　４　閉会の挨拶
　５　諸連絡

協議概要

１　開会の挨拶（校長）
　学校の様子について。３年生は９月以降の実習を経て、それぞれ進路先が決まっている、決まっていない、という状況。１、２年生は 11 月に職場実習をおこなった。途中で実習打ち切りになることもあり、これはあまり今までにないことと感じている。本日の協議会では、委員の皆さまの率直なご意見をお伺いしたい。

２　事務局から説明
（１）平成 31 年度「学校経営計画」進捗状況について（校長）
　資料は第１回でお示ししたものと同じ。11 月末段階での進捗状況で、具体的な取り組み計画・内容と評価指標を見ていただく。第３回で評価を示させていただく。次年度の経営計画も含めてご意見及び承認をいただくこととなる。

【１　教育活動外部への発信と関係機関との連携・交流について】
　校長ブログ更新は現在 75 回。指標は回数となるが、内容を大切にしたい。３月末までに 100 回は超えることになると思う。生徒たちの活躍や、地域、事業所との交流など、発信する内容がたくさんある。
　学校案内リーフレットは、職業学科の詳細を掲載した「T-マガジン」を更新して配付している。今年度は地域支援部を中心に新しいものを作っている。保護者、生徒にわかりや

すいものができれば。第３回の協議会でお見せできると思う。
　中学校等３年生を対象とした体験授業は、今年度初めて７月下旬の土曜日に実施した。参加生徒数 128 人、参加保護者・教員数 164 人。広報や周知という面もあるが、本人の自己決定につながるように本校の内容を知ってから入学してほしい、という思いで実施した。成果があったと感じている。
　各機関との懇談会について。７月の支援機関懇談会では 16 機関との懇談を実施した。事業所対象見学会は７月、８月に実施済み。49 社 64 人が参加した。

　スポーツを通じた交流会について。参加者のアンケート結果は第３回でお知らせできる。文部科学省の事業を受けて実施している。８月、９月下旬に練習会を実施済み。明日、バドミントンの交流事業をおこなう予定。前回と同じ指導者（バルセロナオリンピック代表の岩城さん）を招いて継続しておこなう。高津高校や他の高等支援学校の生徒も参加し、生徒間の交流とトップアスリートの指導を受ける。サッカーは２月９日、元日本代表の加地さんやガンバ大阪の指導者を招いて実施する予定。山本高校や他の高等支援学校の生徒も参加する。
　高等支援５校間の連携について。校長の連絡会は８月に定例会をしている。教員の連絡会は８月に実施し、２回目は１月に予定している。貴重な機会だと考える。

　共生推進教室は２校それぞれに担当教員による設置校訪問を実施した。学校での様子を見に行くほか、実習の巡回指導などもおこなっている。３年生は多くの生徒がすでに内定をもらっていると聞いている。生徒たちにとって本校と設置校において違う生徒集団で過ごすことはいい経験になっていると思う。

　たまがわランドは今後とも充実させたいと考えている。野菜販売、野菜の収穫体験、定食の調理などを予定している。参加者は今のところ延べ 100 人程度。夏休みにレッキス工業株式会社へ野菜販売に行ったが、社員さんが列を作って待ってくれていた。安くて安全、と楽しみにしていただき、全て売り切れた。ありがたいこと。春日野保育園との交流では、野菜収穫体験を園児にしてもらった。生徒たちがお兄さんお姉さんとして一緒に収穫を楽しみ、声かけをしている。
　たまがわフェスティバルには、今年度 807 人の来場者があった。目標の 900 人以上は達成できなかったが、感触としては昨年より多いと感じた。来場者数より中身が大切と考えている。ＰＴＡやたまがわ会のお店もあり、また、卒業生の来校も大きな意味があると考えている。

【２　進路指導と教育活動の充実について】
　今年度、新規事業所での実習は現時点で 40 社程度。卒業生の就労先への巡回訪問は７月までに予定通り 54 人の卒業生について実施した。離職者は、学校で紹介した事業所については２名で 3.6%。在籍生徒の支援に多様性が広がり、時間を費やすという現状があるので、卒業生の支援にも限界があると感じる。関係機関との連携を充実させたい。
　研究授業は、新採教員２名の研究授業についてほぼ全員が参加して共有した。我々の授

業力向上につながると考える。公開授業週間には保護者、他校の先生にも参加してもらい授業担当者へ振り返りシートを返す。

キャリア教育の充実については、イノベーション委員会を活用し多様な発達段階に対応できるよう、今までどおり集団性をベースにおこなうが、そこに個別性を入れていく。チームティーチング力をつけていきたい。また、生徒手帳の機能を入れたノート（仮称たまがわノート）を作ることも計画しており、できたことを積み重ねて目標に到達する、といった内容を考えている。

専門家との連携では、今年度からＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）に来てもらっている。想定以上の成果があった。　来ていただくワーカーの資質によるところも大きく、保護者や連携機関と直接話をしてもらうケースもある。指標として欠席日数をあげている。欠席日数と本質的な課題とが一致するとは考えてはいないが、欠席日数が減っている実績もある。これからも子どもの内面的な変化に期待したい。

自立活動の充実について。今年度から時間を５分拡大し、認知強化トレーニングを自立活動に取り入れている。アセスメント教材として認識しているが、次年度から週２回程度実施する予定。

生徒集会での発表は、生徒会役員の生徒が中心におこなっている。また、来週からは挨拶運動を生徒会のメンバーに加えて参加希望者も入れて、さらに拡大しておこなう。

部活動は加入率 84%。１年生の特徴はラケットスポーツの部員が増えた。全国レベルの大会への出場もモチベーションになっている。

【３　校内体制の確立について】

校内研修のアンケートは概ね好評。すでに９回実施しており順調。

イノベーション委員会は、校長が委員を指名してテーマを決めて取り組んでいる。集団性、ソーシャルスキルをふまえつつ、子どもの多様性の広がりの中で個別性をみる観点がキャリア発達支援の考え方と認識している。生徒たちがどの段階まで達成できているのかを大切にして、キャリア教育計画を考えていく。委員は４名から７名に拡大した。年間計画は 12 月職員会議で提案された。また、メンバーから生徒手帳（ノート）を作成したいとの発案があり、現在検討中である。

校内研修では、OJT の観点から先輩教員が話をするという内容もあった。人権研修は前期に１回、子どもの人権を考える研修を実施した。年明けにもう１回、事例研修とワークショップを予定している。

ワーク・ライフバランスについて、国では月によって勤務時間帯を変えるなどの働き方が提案されている。シェアリングが大切で、簡素化が十分にできていないところは反省したい。ただし、働き方改革のとり方を間違えると教育の本質が問われることにもつながる

ため、ただ削ればよいのではなく教育の質をどうするのかをセットで考えたい。それでも本校の教員の多忙感は高いので、せめて６時には職員室が閑散となるようにしたい。保護者との電話対応の時間帯の設定も考えなければいけないかもしれない。

（２）「学校教育自己診断」（資料２）について（校長）
例年と同様の内容で実施している。結果については第３回に説明させていただく。

「授業アンケート」（資料３）について（校長）
例年と同じ内容で実施している。府立学校条例に基づき、教職員の評価をするにあたっては授業アンケートの結果をふまえておこなう。質問項目は教育庁のひな型を基に本校で作っている。支援学校はチームティーチングであるため、個人の評価としてどのように反映するかは難しい面がある。

（３）報告事項
①進路状況について（報告）（事務局員）
３年生は、本校 62 名、共生６名。５月初旬に職場見学、６月と９月に職場実習、９月には特例子会社の外部講師による授業を実施した。現在 90 以上の事業所で 140 回以上の実習を実施している。年々、生徒の支援の幅が広がってきていると感じている。
２年生は本校 62 名。６月と 11 月に職場実習、９月に「メーカーで働くということ」というテーマで特例子会社の外部講師による授業を実施した。11 月実習では欠席が多いことが気になった。普段の学校生活でも比較的欠席が多い。普段の規則正しい生活が就労継続につながると考えている。普段の学校生活から遅刻欠席がないように取り組みたい。
１年生は６月に進路ガイダンスと職場見学、特例子会社の外部講師による「仕事で大切な事」という授業、11 月に職場実習を実施した。初めての実習だったが欠席が非常に少なかった。

②生徒指導について（報告）（事務局員）
〇生徒指導について
入学して初めて対等な関係を築くことで、人間関係での摩擦、軋轢、トラブルが発生する。自分の気持ちを言葉でうまく言えないことから、トラブルに発展することも多い。小・中で受けた嫌がらせを自分がしてしまう、などの状況も見られる。公正な観点から指導内容を固定すると、対処療法的な指導になることもある。保護者にも協力していただくことも多い状況がある。個別性を重視し、問題行動の聞き取り、指導内容の検討、伝え方、指導の目標などを話し合ってからおこなっている。生徒の実態把握を大切にして、今後に生かしていく。

〇ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）の活用について
５月から週１回程度来てもらっている。障がい特性、心理面・生活面での問題が多い。教員と一緒に生徒とその環境について考え、生徒自身への働きかけ、保護者への働きかけ、関係機関からの情報収集をする。教員も積極的に外部と連携しているが、専門家の知識を

もらって生徒の問題の解決の糸口をみつけだすことができる。ＳＳＷコーディネーターを担う立場で支援のアプローチの変化を実感している。教員とチームとして支援を進めるなかで、不登校の生徒が登校するようになったケースもあった。いろいろなアプローチの引き出しを学んでいる。

○生徒手帳（ノート）について
まだ大枠が決まっている程度。従来の手帳とは違って、特色のある生徒手帳を作りたい。
② スケジュール機能を入れる。大切なことを書いて管理する。
②社会的自立に向けて自分のありたい姿を書いて（個別の指導計画）モチベーションを保つ。
③できたことを記録し、蓄積する。自信をつけて社会人として巣立ってほしい。

③部活動について
現在の加入率は 84%。全国大会への出場も活発。サッカーは関西大会準優勝。陸上は日本ＩＤ陸上で好成績。バスケットボールは大阪大会６連覇、高等支援合同チームで全国大会へ出場。文化部、体育部とも校外でも活躍している。

３　協議（主な協議内容）

●委員：生徒手帳は１年ごとに作り直すのか？

事務局：生徒手帳というよりも自立活動で使うノートのイメージ。今使っているもの（黒ファイル）のバージョンアップで、通常の生徒手帳とは違う。

●委員：できたことを蓄積するのはいいこと。自分の目標を常に確認できる。付け加えるなら、感情のコントロールができない生徒について、「感情の道具箱」と呼んでいるが、好きなアニメのキャラクターや電車の写真など、自分の心を落ち着かせるツールを常に持ち歩くページを作ってはどうか。

●委員：多様性の広がりがキーワード。弊社でも実感している。障がいを個性として考えると広がりがあり、一人ひとりみていかなければいけない。中学校生徒の体験授業はマッチングの機会を広げることになって良いのでは。子どもを中心にしたネットワークが広がると感じる。ワンチームとしてサポートすることがこれまでもこれからも大切。弊社のテーマでもある。また、ＳＳＷ、臨床心理士などの専門スタッフとのネットワークをどのように作るかも考えたい。弊社でも多様性の広がりについて専門スタッフとのネットワークが必要で、来期以降のテーマとしてあげたいと考えている。また、シャープ特選工業株式会社の出張授業のようなことをやっていきたい。

●委員：卒業生が来て在校生へ話すような機会はないのか。

●委員：１月に、卒業生の保護者が来て在校生の保護者へ話す機会がある。

事務局：前任校ではやっていた。就労先の会社の方と一緒に来てもらって、在校生に話をする。

●委員：弊社でも他の学校には行っている。本人にとってもいい機会になっている。

●委員：大勢の前で話すのは難しいが、書いたものを読むことはできる。

事務局：３年生は５月の職場見学で卒業生の話を聞く機会があるが、今後検討していきたい。

●委員：ＳＳＷはどの学校にも配置されているのか。

事務局：今年度初めて事業化された。支援学校についてはまず高等支援に置くことになった。他の支援学校が活用したい場合は高等支援に来てもらっている日に活用できる。ぜひ継続してほしい。

●委員：登校できない生徒について、先生以外の人に話を聞いてもらうよい機会では。

事務局：生徒にとっては、利害関係のない人が相談相手でありソーシャルワーカーなので、学校と生徒をつなぐスキルがある。

●委員：一般高校の離職率はどれぐらいか。

事務局：高い離職率と聞いている。一般高校では面接だけで就職が決まるので、支援学校では実習があることが大きい。

●委員：企業から理解してもらうことが大切。東大阪の企業に支援学校の生徒を引き受けてくれるような機会があればよい。

●委員：交わることが大切。今期から関連工場で障がい者の受け入れを始めた。担当者が今までなかったことなので不安に思い、わからない、という怖さがあったが、弊社で現場に入ってもらったら帰る時にはにこにこしておられた。わからない、知らない、というだけで、わかると安心できた。たまがわランドでの接点も大きいのでは。

●委員：たまがわフェスティバルに行った話を地域の人から聞くことがある。楽しみにされている様子。地域でも独居老人の問題があり、地域世帯のうち多くが 65 歳以上。地域でもお年寄りが家に閉じこもらず活動の場に来てくれるよう取り組んでいきたい。これからお年寄りと生徒との交流ができれば。地域の子どもの見守りをしているが、小学生と話す

とエネルギーをもらえる。

事務局：福祉事業所で本校の生徒がハンドケアをしている。生徒も生き生きしているしお年寄りにも喜んでもらえる。

●委員：今年、就労について苦戦しているとのことだったが、私のところでも内定が遅い。こちらもマッチングを丁寧にしているし、支援をたくさん必要としている方が多いので企業が選ぶこともある。お互いマッチングを重視している。

●委員：災害が起こった場合の避難場所について心配している。稲葉地区で学生がいるのはここだけ。生徒の協力がもらえたら助かるのではないか。マニュアルはできていないが独り暮らしの老人への対応で協力体制ができないか。おかゆを炊くなど。

事務局：生徒たちが地域に貢献できることはすばらしいと思う。

４　閉会の挨拶（校長）

５　諸連絡（司会）
　次回は３月に実施の予定。